

日本語ボランティア活動は 2020年東京オリンピック・ パラリンピックで生かされるか?!

ボランティア日本語教室には“日本語が話したい、読みたい、書きたい”と望む外国から来られた人達が集まり、日本語学習の場はボランティアと学習者、学習者同士の交流の場となっています。こうした関わりの中で、TNVNで共に活動しているメンバーに今の気持ちを書いて貰いました。

おもてなし

◎半世紀前の東京オリンピックを思い出すと、世の中は大変かわりました。先ず、私が歳を取ったこと。当時は33歳、次は88歳になります。しかし「おもてなし」で、外国から来られる方々に、日本は良い国、人々はすばらしいと思って下さる様にならざるを得ないと思いませんか。

国々には差別なく親切をモットーに接しましょう。日本人は国民性からしておもてなしの心は、昔から今まで、将来にわたって同じだと思います。普通の日本人は日常生活すべてがおもてなしの心で暮らしています。オリンピックだからと特に変わることなく、普段のくらし方で接することでしょう。日本は「おもてなし」のお国柄です。 (小川)

◎東京都が行う“おもてなし”の輪に私達の支援する学習者が参加できれば、とても嬉しいです。また、“やさしい日本語”が参加者のハードルを下げてくれることを期待しています。私は学習者を通してオリンピックに参加し、“おもてなし”を表したいと思えます。ふだんの日本語支援の場では生活の話題が中心となり、スポーツを語り合う機会は少

ないのですが、オリンピックの参加国の多さを考えると、どの学習者にとってもオリンピックの話題は楽しいものになるはず。オリンピックで使われる日本語を知り、母国の選手を応援し、これを機に日本を訪れてくれた母国の人々と競技会場で交流できれば、すばらしいおもてなしになると思います。 (山本)

学習者と共に

◎学習者の中に、開催が決まった途端「東京オリンピックでボランティアをしたい」と言った元気なインド婦人がいます。「祖国の選手の通訳ではなく、もっと違った形で関わりたい」と言うのです。区内には大きな競技場があることだし、ボランティアの定番が多そうです。どんな形のボランティアがあるか、まだ見当が付きませんが、彼女と一緒に情報を集め、他の学習者にも呼びかけたいと考えています。 (岡田)

◎日本語ボランティア活動は、2020年の東京オリンピックに充分生かされると思います。私ども「かけはし」の活動だけでも毎年、70人ほどの新しい学習者が来ます。国籍は、いろいろですが、来室者の約半数は

英語も話せません。

英語、本国語、日本語を話せる人が、これから350人ほど、本国語と日本語を話せる人が、同じく350人ほど集まっていきます。これらの人々は、東京オリンピックで何らかの手助けが出来ると思います。

(坂本)

思案中です

◎町田市では、オリンピックの競技場の提供ということはできませんが、何かの競技のキャンプ地として練習場などの提供を考えているようです。その場合に、町田市に来る各国の選手たちに対して、日頃の外国人学習者の支援と同じ様な気持ちで接し、彼らが気持ちよく過ごせるようにお手伝いできればと思います。 (渡辺)

◎TNVNがどこかの団体と一緒にコラボレーションして、日本を訪れた人たちが、ガイドブックに書かれている場所を訪れるだけでなく、一般の日本市民と交流できる場が提供できたらいいのではと思案中です。

(武貞)

文化庁の事業に関わる事になって



宮崎 妙子 (TNVN 協力会員)

文化庁は2007年以来、「地域における日本語教育の充実」を目指し、『生活者としての外国人』のための日本語教育事業を推進しています。2013年度より当事業の「地域日本語教育実践プログラム(A)」を委託されたC区のある日本文化研究所は「C区におけるボランティア日本語教育の活性化と拡充のための支援事業」に取り組むことになり、東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)はアドバイザーとして関わるよう要請されました。そして、2年目の今年度はTNVNより依頼を受け、私も加わることになりました。

「地域日本語教育実践プログラム(A)」とは、『生活者としての外国人』に対する日本語教室の実施、その実施のために必要な指導者等の人材の育成・研修及び学習教材作成業務」と説明されており、当事業における日本語教室、人材の育成としてのボランティア養成講座が終了し、私が担当する教材作成業務が始まりました。

教材作成のヒントとして、文化庁は『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』を公表。これに基づき、C区に即した教材はすでに初年度に作成されています。したがって今年度は教材というものを従来とは異なる角度から考えたいと思っています。たとえば、「名刺交換」という外国の方も日本の方も、全員が参加する活動です。各自が名刺を数枚作り、教室中を移動しながら名刺を交換し、お互いに会話を楽しむものです。当事業によ



「名刺交換」風景

る日本語教室でもやっていただきましたが、終了後のコメントシートには「本当におもしろかった。老師親切し、勉強になりました」「SUPER!」などがあったそうです。

幸い、12月末に終了したボランティア養成講座受講者の有志が新しくC区に教室を立ち上げることになり、同時に、教材作成グループも結成されました。C区を生活の場とする方だけではなく、職場とする方たちも多く、この方たちとの協働からなにかが生まれることを期待しています。

また、地域日本語教室はさまざまな文化を持つ人々が「継続的・日常的に」集まる「地域の国際化・多文化化の最前線」にあり、「地域における住民同士が、異なる文化を持つ人々の発言に耳を傾け、その人たちの考えや行動を考えられるようになることによって、多文化共生の拠点となる可能性」を持つと言われますが、この可能性を追えればと思います。

「異なる文化」は日本人同士の中にも当然、存在しますが、「それに気づき、認め合うことから地域日本語教室は始まるのではないか。そのためには、まず、ボランティア養成講座に人間関係づくりのためのプログラムがあればいい」と考え、そのための活動をボランティアのための講座用としていくつか紹介できればと考えています。次に、教室用としては、外国の方と日本の方が話し合い、学びあい、お互いの関係性を深めていけるような活動、参加者間でお互いに「ありがとう」が交わされるような活動を取り上げたいと思っています。それにしても体感しなければ体験にならず、文字でどこまで説明できるのか、私の意図がどこまで文字を通して伝わるのか、非常に心もとなく感じています。

しかし、文化庁の狙いが成果物としての教材そのものよりも、縁もゆかりもなかった市民が集まり、地域の外国人をテーマに話し合い、社会を考えていくプロセスにあると考えれば、少しは気が楽になります。果たしてどのようなものができるのか。これからが正念場です。

日本語の道

日本語教師 金子 広幸



みなさんは学習者がどのように日本語の道をたどってくるかわかりますか。

第1問。最初はどんな日本語を覚えるでしょうか。「これは鉛筆です?」「私は日本人です?」「はじめまして、どうぞよろしく?」「お名前は?」でしょうか。私たちが思い出すのは分厚い教科書の最初の課の例文ですね。

第2問。勉強を始めたばかりの学習者が習う動詞は何でしょう。

『みんなの日本語』だったら、「働きます」「休みます」などのあとに「行きます」「来ます」「帰ります」と続き、「食べます」「飲みます」「(テニスを)します」などが出てき来ます。そして、動詞には活用形があり、それが「時制」と、肯定・否定で組み合わせさせて、4つの形に変化するという事を学びます。それを「ます形」と呼ぶことを覚えます。

行きます (非過去肯定)		行きました (過去肯定)
	行って (時制としては中立)	
行きません (非過去否定)		行きませんでした (過去否定)

私のクラスではこの表のように早い段階から一組にして覚えてもらっています。

そして、「～ませんか」が出て来ると、やっと「一緒に○○ませんか」が言えるようになり、コミュニケーションらしいことができるようになります。

さらに、「～てください」が言えるようになるためには、複雑なシステムを持つ「て形」にチャレンジしないと

なりません。

その後も、「辞書形」「ない形」「た形」と次々に活用形が出てきます。

文字は、ひらがなを50字近く覚えたとしたら、この次はカタカナ、それが終わると漢字。大変な負担です。

でも、「日本語の道」はこれだけではありません。

ここまででお話したのは、「配列された文法知識」を学ぶ「日本語の道」です。

一つ逸話を紹介しましょう。私の高校時代の英文法の教科書の中に“*There is a dog in front of the bank.*”という例文がありました。「銀行の前に犬がいます」とはなんと馬鹿げた例文だろう、と高校生の私は思ったものでした。でも大人になったある時、街角にかわいそうな犬が震

えているのを見た私は、そばにいた英国の友人に、この英文の通り叫んでいました。

私が馬鹿げていると思いつつも覚えた例文

が、ろくに英語も話せなかった私の口から出て、しっかり意味を持って役に立ったのです。そのとき、どんな文法構造をもっているかなどは思い出されるはずもなく、「かわいそうな犬」に触発された私が、全く無意識に口にした言葉となったのです。

これは稀有な例ですが、発話する人にとって必要な知識は、この文の前半に述べた「配列された文法知

識」の順番に出て来るわけではなく、「日本語の道」の1本にすぎません。

初めてのロンドンでも、そう思いました。あんなに英語を勉強させられたのに、マクドナルドで「ハンバーガーひとつください」が言えませんでした。Can I have ~? もっと丁寧にはMay I have ~? と注文すればいいと分かったのは、しばらくマクドナルドの店内を観察したのちのことです。私は、まさに犬が横断歩道を渡る人々を見てわたり方を覚えるように、人を観察してそれを真似て、自分の要求を伝えることを覚えたのです。そこでは確かに文法知識は役立ちましたがそれとは違う何かが私の心を動かしました。

地域で日本語支援をしているみなさんは学習者が道に迷った時の「伴走者」だ、という事は以前の号にも書きましたが、学習者がある意味順調に「配列された文法」を学習しているときには、「傍観者」であってもいいと思います。

むしろ、「来週発表をしなければならぬのに、原稿の準備ができていない」とか、「これをお店にお願いに行くのに、日本語でどういったらいいかわからない」という学習者が現れたときにこそ「伴走者になる」ことが肝要です。『お茶を飲みながら話さない?』と軽く、スマートに「伴走者」になれたら最高だと私は考えています。そこには文法知識をコネコネする必要はありませんから。

(8ページに続く)

おなじようであちがっていた 日系人と日本人

府内
ステイシー
(町田市)

毎日、私はかがみを見ます。毎日、私はそこに私を見つめかえしている日本人の女の人を見ます。でも、かのじょは日本人ではありません。かがみの中の女の方は日本語と日本のエチケットにくろうしています。かのじょはよんだいめの日系アメリカ人です。この女の方が私なのです。

私はアメリカのハワイで生まれそだちました。そうそふとそうそばは日本からハワイにきました。おもにそふとそばは私のりょうしんと私に英語で話しましたが、ときどき日本語のことばを使いました。とくに、私はキッチンやしょくじの時に日本語をまなびました。いろいろなことばをまなびました。

たとえば、「こぼした」や「かたい」や「しょうゆ」や「ごちそうさまでした」などが話されました。私たちも、英語と日本語のことばをつないで私たちじしんのことばを作りました。私の好きなことばは「Hot- すい」と「Rubber- ぞうり」でした。

「Hot- すい」というのはあついというみです。

「Rubber- ぞうり」というのはごむぞうりというみです。

これらは、日本語と日本のぶんかの私のさいしょのレッスンでした。

ハワイに住んでいる日系アメリカ人は、よくりょうほうのぶんかをむすびつけます。

たとえば、私たちはポップコーンとかきもちをまぜて食べるのが好きだし、私たちの大好きな食べ物はスパムおにぎりです。

日系アメリカ人として、私は日本人たちと



おなじことをたくさんします。たとえば、内にあがるまえに、くつをぬぎます。しょくじの時に、はしを使ったり、ちやわんにいっぱいごはんをよそったりします。私はいつもかぞくとともだちにおみやげを買ってあげます。

しかし、日本に住んでいらい、私は、私がしている多くのことが日本人たちとちがっていると、きがつかました。たとえば、多くののはあい、私のこうどうはことなっているのです。アメリカでは、おじぎをしないでよく、あくしゅやハグをしてひとびとをむかえます。「いらっしやいをする」時は私の手のひらを上にむけます。

日本でのせいかつで、私は私の日本からうけついだものとアメリカこくみんであることよさがわかるようになりました。アメリカのやり方と日本のやり方のちがいをとても楽しんでいきます。私は日本人たちと多くのるいじてんがあることをにんしきします。でも、日本に住んでいる日系アメリカ人として、私はいつもちがっていたり、おそらく少しきみように見えるかもしれせん。けれども、私はライフスタイルとぶんかのりょうほうを一つにくみあわせることができこうんです。

私はこれからもずっと、あくしゅやハグで人をむかえるでしょう。でも、おじぎもします。私は英語を話す時、日本語をまぜて話してつづけるでしょう。

かきもちいりのポップコーンやスパムおにぎりはいつもおきにいりのスナックです。そして、私はずっと私なのです。



国際交流基金アジアセンター

“日本語パートナーズ”ってなに？



昨今、幅広い経験を持つ中高年の人達に、いろいろな活躍の場が増えてきたことは嬉しいことです。「ボランティアでもしようかな」という人も大切ですが、「一杯頑張って、自分も成長しよう」という元気いっぱいの方に、ぜひお薦めしたいプログラムをご紹介します。TNVN 取材チームは国際交流基金アジアセンターを訪問して“日本語パートナーズ”についていろいろ伺いました。

現在、東南アジアの国々ではたくさんの人達が日本語を勉強しています。特にインドネシアでは2006年ごろから第二外国語としての日本語学習が中等教育機関で始まり、2012年には日本語学習者数が世界で2番目になりました。このような流れの中、日本・ASEAN友好協力40周年をきっかけに安倍首相が発案し、アジアと日本の架け橋となる人材を2020年までに3000人以上派遣するという“日本語パートナーズ”派遣事業が始まりました。この事業は国際交流基金アジアセンターが実施しています。

東南アジアの国々で日本語を学習している生徒は、日本人と接する機会が少なく、学習意欲を維持することが難しいという状況が聞かれます。また、急激な学習者数の増加に伴い、現地の日本語教師不足も深刻な問題です。こういった課題の解決策のひとつとして、“日本語パートナーズ”は現地の日本語教師のアシスタントをすることで、日本事情や文化の紹介などをします。2014年度の“日本語パートナーズ”は、ASEAN10か国の内、タイ・フィリ

ン・インドネシア・ベトナム・マレーシアに派遣されました。今後、段階的にミャンマー・シンガポール・カンボジア・ラオス・ブルネイへの派遣も予定されています。

さて、“日本語パートナーズ”の“パートナーズ”に注目してください。パートナーズには「同じ目線で寄り添う姿勢を持った人」という意味が第一にこめられています。まさに、日本語ボランティアが日本語学習支援でいつも実践していることではないでしょうか。

また、外国の学校での日本語学習支援には日本語教師としての知識や資格が必要だと思う方も多いでしょう。もちろん、知識は無駄にはなりません、必須条件ではありません。では何が求められるのでしょうか。アジアセンターは赴任先の学校を決め、住む場所などの準備をしますが、原則として一人で派遣先に赴き、すべてを自分一人で行います。派遣先での生活は、現地の一般的な家庭と同じ水準の暮らしになるそうです。日本での生活と比べると不

便なことがあるかもしれませんが、工夫して生活を楽しむことが必要です。

“日本語パートナーズ”の主な活動は、現地の日本語教師へのアシスタントをすることと、初めて日本人と話す生徒達との文化交流ができて、活動の半分です。残りの半分は自分自身も現地の言語、文化や風習など様々なことを発見、吸収し、現地で学んだことを日本へ発信したり、帰国後に地域へ還元したりして交流の輪を広げることです。

つまり、“日本語パートナーズ”としての必須条件は、相手国への理解と思いやり、自分自身も学ぶ謙虚な姿勢、そしてバイタリティです。

(取材・文責)

大木千冬、岡田美奈子、林川玲子、山本英子



挑戦したいと思った方は、国際交流基金アジアセンターウェブサイトをご覧ください。

www.jfac.jp

◎ 応募要件 ● 満20歳から満69歳で日本国籍を有する方 ● 日常英会話ができる方 ● 派遣前研修(約1か月間)に全日参加できる方 ● 心身ともに健康な方、など。

◎ 問い合わせ先

国際交流基金アジアセンター 日本語事業チーム(担当:長田・川崎)
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
電話: 03-5369-6136 / ファックス: 03-5369-6036
Eメール: nihongopartners@jpf.go.jp

■笑顔で、楽しく、国際交流

江戸川日本語クラブやまびこ (江戸川区)

代表／村田 絵里子

Facebook:「江戸川 やまびこ」で検索／e.yamabiko@facebook.com

江戸川日本語クラブやまびこは、地域に在住する外国人の日本語習得を支援するボランティア団体です。2013年4月に発足しました。

クラブ名は、山で叫んだ時に声が反響する「山彦」から。学習者とスタッフ、お互いの心と心が響き合うような関係性を築いていければ…という願いを込めました。

平井駅北口から徒歩15分、中平井コミュニティ会館で、毎週土曜日の夜7時から9時まで活動しています。学習者は10名ほど、スタッフは12名で、そのうちの8名前後が毎回参加しています。

学習者の国籍は様々ですが、中国人がその大半を占めています。初心者から上級者まで、日本語のレベルはもちろん、勉強する理由も目標も千差万別。学習者のニーズに応えるため、原則マンツーマンで対応しています。

毎回同じペアでの学習が理想ですが、それができない時がよくあります。スタッフ同士スムーズに引き継げるように、目標や学習内容、引き継ぎ事項を書いた学習者個人カードで、情報を共有しています。

8時のブレイクタイムには、全員が教室中央に置いた長机に集まります。新入りの学習者やスタッフが自己紹介を



したり、お知らせを伝えたりしています。お茶を飲みながら和気あいあい、常にアットホームな雰囲気が漂っています。

毎週の教室のほかに、新年会、お花見、春秋のツアー、花火鑑賞といった行事があります。日本文化への理解を深めてもらうと同時に、親交を温める場になっています。

やまびこの理念は「笑顔で、楽しく、国際交流」。まだまだ小さなクラブですが、学習者とともにゆっくと成長していきたいです。

会員団体紹介

Nice to Meet You

府中国際交流サロンは1995(H7)年に設立されました。当時は異なる5グループ程が在住外国人支援活動を行っていましたが、教室場所の確保やボランティアの配置など共通に行動できることから府中市が調整し、一つにまとまり、名称も府中国際交流サロンとして発足しました。その後、市からの在住外国人支援や文化交流促進などの受託事業、さらにサロン独自の交流イベントなどを手作り感覚で実施しています。

具体的な活動は、週5回の日本語学習教室、年1回の日本語学習発表会、生け花・絵手紙・世界のダンスなどの教室、市の公用バス利用の日帰り研修ツアー、多摩川河川敷でのBBQパーティー、年に一度

nice to meet you

■府中国際交流サロンはその名の通り集まりの場です

府中国際交流サロン (府中市)

代表／小川 秀樹

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

の大パーティー「サロンの集い」、ボランティア養成の研修会、市民も交えた講演会、外国人学習者と市民の国際理解講座、会報「くろすろーど」毎月発行、などそれぞれボランティアと学習者参加の専門部会をメインに展開しています。

またこの10年ほど、学習教室の確保についても市役所第2庁舎会議室を学習日に使用できる配慮があり、事務局職員も一人常駐して頂いています。財源的には受託事業にはそれなりの受託費が

供与され、独自イベントには実費レベルの参加費で賄っていますので、ボランティアも学習者も年会費は徴収していません。こうした府中市の対応は他自治体よりは恵まれた状況かと思えます。

サロンは今年20年を迎えます。サロンで学ぶ方は約40か国地域に及びます。要望は今後ますます増えていきます。私たちはキャッチコピー「府中に住む日本人と外国人が仲良く助け合って楽しく生活していくことを願って、活動を続けていま



す」を念頭にボランティアはもちろん外国人学習者も一体となった組織作りと活動内容の見直しを続けて行きます。

学習者の声

日本語の勉強を続けて
日本と台湾のかけ橋に
なるつもりです

彭邵蘭 (ボンシャオラン) / 台湾
日本語交流クラブ (杉並区)

私は台湾から日本に来てもうすぐ10年になります。日本に来た最初のころは、日本語を全くしゃべれませんでした。平仮名と片仮名もあまり読めなかったので大変でした。

そんな時に、友達から日本語教室があると聞いて、今の教室へ通い始めました。日本語を勉強していくうちに、敬語の使い方などが難しくて日本語を使いこなすことが出来ないのではないかとも思いました。今では、日常会話で困ることもなくなりました。熱心に教えて下さった先生のお蔭です。もっともっと勉強して行きたいと思っています。

ところで私は昔から日本人の真面目なところが好きなので、とても興味がありました。実際に日本で生活してみて、本当に素晴らしいと感じます。

特に、4年前の東北大地震の時、被災者の人達はちゃんと並んで順番通りに救援物資をもらっている様子をテレビで見てすごく感動しました。

最近では、日本の友達も出来たので、一昨年と去年、台湾に興味のある友達を台湾旅行に案内して、とても喜んでもらいました。

今後も、日本語交流クラブに通い、日本語の勉強を続けて、日本と台湾のかけ橋になるつもりです。そして、もっと日本人の友達に台湾の良い所を伝えたいと思います。両国の人の心の交流のお手伝いをして行きたいと思っています。



ボランティアの声

週に一度、90分のレッスンで
個人レベルの国際交流

村林典子
日本語交流クラブ (杉並区)

初レッスンは、レッスンプランを作って臨んだものの、相手の反応を見る余裕もなく汗びっしょり。なんとか学習者と意志疎通ができたお手伝いがあったのは何回目、いや何十回目からだったろうか。

「わたしたち一緒に日本語を勉強したい」仲良しのタイ女性二人。

「自宅学習はできないけど、ここでおしゃべりするだけでもいいですか？」会社で忙しく働く台湾女性。

「姑が育児や洗濯の仕方まで口を出すの。どうしたらいいかしら？」日本人と結婚したタイ女性。思いつめた表情で訥々と話していたが、明るい表情で帰っていく彼女を見てほっとした。

「留学生として日本の大学に通っている



のですが、レポートを見てください」優秀なインドネシア男性は日本人顔負けの文章を書く。

「日本語能力検定1級を受けたいので漢字の勉強をしたい」来日したばかりの若い韓国女性。「宿題もたくさん出して」としっかりしている。

グループの窓口役をするようになってからは、外国人の電話を受けたり、教室で新学習者の対応もこなすなど忙しくなった。

最近は滞在期間が長い台湾、韓国や中国の女性を教えることが多くなった。彼女たちにとって日常生活に密着したことが優先事項。子供の教育や就職について相談されることもある。昨今の国際情勢も気になるし、知らないことがいかに多いか気づかされる。「新聞をよく読むようになったね」と夫から冷やかされている。

こんな私のボランティア歴も、はや10年を超えた。レッスンを受けた外国人は10か国以上、20人以上になる。週に一度、90分のレッスンで、個人レベルの国際交流ができれば幸せである。

◎2014年度のTNVN総会を4月26日(日)に開催します。

TNVN総会と講演会(予定)／情報・意見交換会
を下記の通り行います。

TNVN会員には別途総会案内をお送りします。

◆日時／4月26日(日)

13:00～16:00

◆場所／社会福祉法人さぼりと21・会議室

東京都品川区上大崎2-12-2

ミズビル3階

JR目黒駅東口より徒歩3分

◆内容

- ① 2014年度活動報告・会計報告
- ② 2015年度役員選出と活動計画
- ③ 総会終了後に講演会(予定)と情報・意見交換を行います。

都内各地域で日本語ボランティア活動をしている
方々が参加し、お互いの活動状況や問題・課題
について意見交換をしていただきます。



◎紙上講座 日本語の道

(3ページからの続き)

学習者には、「文法知識をこつこつ積み上げたい」人もいれば、このように「場面で最低限必要なものを拾い集めていけばいい」と考えている人もいます。前者だけだと、私のように、There is a dog in front of the bank.という発言はどの場所で言うのか想像がつかなくなるでしょう。また、後者だけだと、文法知識にのっつた、いわゆる「正しい日本語」はいつまでたっても身につかずにいる可能性もあります。

伴走者としてはどちらを優先します

か? いえいえ、これはみなさんに聞いてはいけない質問です。伴走者が決めることではありませんね。地域支援の場で、学習者が選びたいと思っている道と、支援者が示している道が食い違っている場合もあると思いますし、お互いが、その道の選び方を間違っている場合もあります。こんなときこそ、学習者が「日本語の道」をどう歩むかを、伴走者がみずから尋ねなければならぬのです。

明るく、最短距離で、実りの多い、「日本語の道」を、学習者と手を携えてお通ってください。

column 言葉と音楽

日本語の音とは、どんなものだろうか。感情を、はき出さなく黙る人達、現在の状況の中で話されている言葉の響きとは、あらためて肌で感じる言葉というものは何かと、考えさせられました。

私は長いこと、デイサービスや特養ホームで認知症の方々に音楽のボランティアをしています。

音楽を通してわらべ歌や童謡、演歌の中に、暮らしてきた時代を思い浮かべられるように、思い起こしやリハビリをかねて一緒にたくさんの詞を歌ってきました。

人間はコミュニケーションを必要としてい

る存在です。そして笑ったり、怒ったり、喜んだり感情が動くことが、人間らしく生きることと思っています。

日本語の言葉を音楽にのせて、特性を生かし、口や舌や耳を使って、発音しやすい言葉から、リハビリにつながるようにといつも考えてきました。オノマトペのように、イメージから感覚を感じるというのも、体の動きと共に楽しめると思いました。言葉を引き出すという事で相手の心に呼びかけて、気づいてもらいたいというつもいを重ねて続行中。

大木千冬



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸 1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数(2015年1月30日現在)

正会員：85団体

個人協力会員：16名

団体協力会員：1団体

賛助会員：4団体

◆編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

◆レイアウト／鶴田 環恵